

新たな賑わいを生む「ひとつながりの弧」



トランポリン遊具から「ひとつながりの弧」を眺める

コンセプト

中城公園 自然共生エリアは、地域の人だけでなく県内外の親子連れや旅行者など、国籍を問わず多くの人が訪れる賑わいのある公園です。

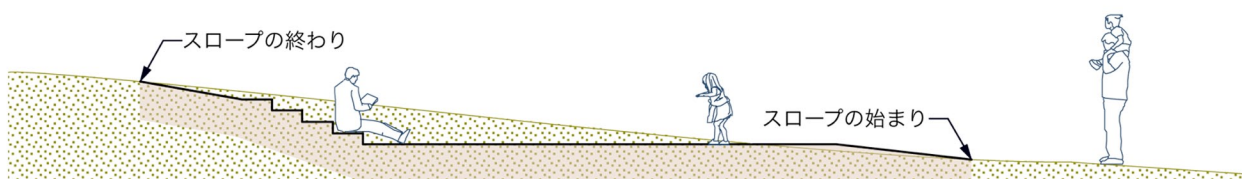
公園内は、緑に囲まれ、小川が流れ、キャンプ場、健康遊具、幼児遊具、大きなトランポリン遊具などが点在しています。

この自然豊かな恵まれた環境のもとには、「訪れた人々を迎え入れ、新たな賑わいを生む憩いの場」と「快適で誰でも利用しやすいトイレ」を建築できないかと考えました。

自然環境との調和

敷地北東側の比較的傾斜の緩やかな場所に建物を配置し、スロープの始まりと終わりを地面に擦り合わせて地形に寄り添うように計画します。

また、屋根は緩やかに勾配をつけ、柔らかく反射して公園の景色を取り込み、周辺環境に調和します。



南遊具広場の配置計画について

<くつろぎテラス>

風の流れと人の流れを取り込むように南北に長い休憩スペースを計画し、既存の園路に沿って柔らかな弧を描きます。

<トイレ機能>

遊具とくつろぎテラスに対して開くように、東向きに弧を描きます。

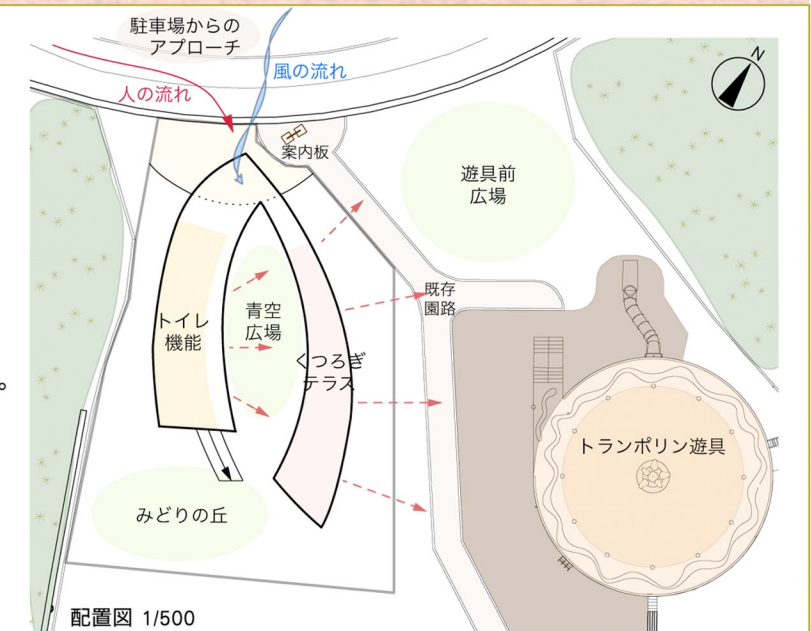
<青空広場>

トイレとくつろぎテラスの間に、風や視線が通り抜ける中間領域をつくります。

<屋根でつなぐ>

トイレ機能と休憩スペースの2つの機能を1枚の屋根でつなぐことで、柔らかく関係づけ、空間を一体的に感じることができます。

この広々とした原っぱの中に機能を配置していくと、弧を中心にみどりの丘や遊具前広場という、新たな賑わいが生まれます。



訪れた人々を迎え入れるエントランス広場の様子



～みどりの丘からの眺望～
くつろぎテラスから新たな賑わいが生まれる



南西側から見たトイレの様子



年齢、性別、国籍を問わず多くの人が利用するトイレ。見通しよく、分かりやすい動線計画とします。

トイレの外壁には、大きさの異なるまるい開口をあけ、自然光を優しく取り入れながら通風を確保し、省エネルギーに配慮します。

また、開口を設けることで死角を無くし、円の大きさを調整してプライバシーを守り、安心安全で清潔なトイレ環境をつくります。

<トイレの機能>
 多目的トイレ オストメイト配慮、オムツ替台
 男子・女子トイレ 個室内にベビーチェアを設置
 こどもトイレ 腰壁(H=1200)



■建築概要

階数	: 地上1階
構造	: 鉄骨造
床面積	
トイレ	: 46.83㎡
テラス	: 50.89㎡
合計	: 97.72㎡
最高高さ	: 4.00m

■仕上げ

トイレ	
壁	: RC打放し補修+落書き防止塗料
床	: 磁器質タイル
くつろぎテラス	
柱	: 鉄骨柱(直径100)+塗装仕上げ
床	: コンクリート土間+ビシャン仕上げ
軒裏	: 木板耐水処理仕上げ
屋根	: アルミ電解研磨仕上げ

■回遊性とバリアフリー

トイレとくつろぎテラスは、それぞれ弧を描くように配置しているため、回遊性のある動線となっています。また内部は全てスロープでつながっており、バリアフリーになっています。

■構造計画

架構は鉄骨造のシンプルな構造とし、屋根素材も軽量のものを採用してコスト削減に配慮します。トイレベースはRC造の独立壁として、耐久性を高めます。